

9)第九日目 礼文岳(490m)

H19年6月26日(火) 晴

- 朝からどんよりとした空。北海道にはなぜかすっきりした空がない。昨夜は利尻山へ登れた満足感からか良く寝てゆっくり目覚めた。



2晩お世話になった「お宿・まるぜん」



ペシ岬からフェリーが離れてゆく

- 7時半に例のレストランでゆっくり朝食をとる。二晩お世話になった宿「まるぜん」に別れを告げてフェリーターミナルに行き10:05発礼文島香深港行きのフェリーを待つ。10:05予定通り出航、乗客は結構多い。

- 港はガスがたちこめどんよりとしていたが船が港から離れるにしたがってガスが晴れてきて、なんと利尻山が雲を突き抜けて頭を現した。

- よく見るとガスは利尻島の高さ100~300mくらいのところにたなびいている雲で、その上の方は雲が全く無く快晴である。そういえば昨日の利尻山も400m登れば雲の上に出て快晴だった。山の中腹にだけ雲がかかり上の方は晴れているが麓では雲の下に入りどんよりという状態になる。島から離れて眺めるとその状態が良く見えると言うわけだ。



利尻山が雄姿を現す

- 礼文島香深港に10:45着。礼文島は快晴で中腹に雲を巻きつけた利尻山が良く見える。民宿「海撞」の迎えの車に乗り北へ向かう。乗客は私一人。礼文岳へ登るため途中の内路で降りてもらおう。標高500m弱の低い山だが海拔0mからの登りだから結構きつい。登り約2時間のコースだ。快晴の真夏の太陽が照りつける中海拔0mの内路から登り始める。始めはなだらかな林間の静かな気持ちの良い道だが



内路の礼文岳登山口



振り返ると内路の漁港

山頂近くなると林も切れて木が全くない火山特有の石だらけの道。真夏の直射日光を頭からガンガン受け汗だらけで急坂を登る。

- ・13:00過ぎに山頂に立つ。眼前の洋上には昨日征服し、今朝別れてきた利尻山がくっきりと聳え立ちさらに視界は360度でなんとすばらしい眺めか。



礼文岳山頂



礼文岳から望む利尻山

- ・頂上には抜きつ抜かれつして登ってきた高校生か大学生くらいの若い娘と私の二人だけ。その娘は頂上からちょっと離れたところで昼食を食べている。要するに頂上は私が独り占め。写真を撮り昼食をとって13時半過ぎまで礼文岳の山頂での眺めを楽しむ。
- ・利尻・礼文山行ツアーの20名余の団体が登ってきたのでそそくさと退散とする。下りは途中一回休憩しただけで、15:00に内路のバス停に到着、15:33発の船泊行きバスを待つ。天気がいいので気持ちが良い。一緒に登った例の若い娘もすぐ後から下りて来て、止めてあった大宮ナンバーの赤い車に乗り込み香深方面へ走り去った。バスを待つ間に例の利尻・礼文山行ツアーの団体も下りて来て、これも止めてあったマイクロバスに乗り込み、同じく香深方面へ走り去り私一人取り残された。
- ・15:33定刻に結構立派な路線バスが来たので乗り込む。昨夜宿「まるぜん」で話をした本州のおじさんがご夫婦で乗っており、「やあ！」と挨拶。スコトン岬へ行くとのこと。私は船泊の民宿「海憧」の前で降ろしてもらう。結構立派な民宿、一万円取るだけのことある。宿泊は私のほかに男性一人と若夫婦の3組だけ。風呂に入り洗濯を乾かし暮れ行く海を見ながら涼しい風に吹かれて夕食を待つ。天気は？
- ・夕食は海の幸中心、かなりの量があるので天ぷらと揚げ物を外して残した。あすはとうとう礼文島の縦走、どんな花とめぐりあえるか楽しみだ。天気はどうだろうか。



民宿・海憧からの眺め



何ていう花？

[見られた花] 19種  
(名前のわかったもの 11種 + 名前不詳 8種)

- ・クルマバソウ ・ツマトリソウ ・ハクサンチドリ
- ・オククルマムグラ ・ゴゼンタチバナ ・カキドオシ
- ・コケモモ ・エゾノヨツバムグラ ・ハマナス
- ・キジムシロ ・キツネノボタン